

＜魚沼米憲章を实践します＞

# JA魚沼みなみ「南魚沼コシヒカリ」栽培ごよみ

南魚沼コシヒカリは  
土作りで良質米を生産します！

南魚沼コシヒカリは  
安全・安心な米づくりを实践します！

南魚沼コシヒカリは  
高品質・良食味米を生産します！

1 有機質の施用例

堆肥を積極的に施用しましょう。収穫後、速やかに稲わら・籾がらを秋すき込み(10月15日頃まで)することにより、**堆肥施用**と同等の効果が期待できます。

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 堆肥       | 500~1,000kg/10a |
| 稲わら腐熟促進剤 | 20~30kg/10a     |

2 総合的土づくり資材例

リン酸、ケイ酸、鉄などの成分がバランス良く配合された資材です。

|              |          |
|--------------|----------|
| 魚沼ロマンアイアンスター | 60kg/10a |
|--------------|----------|

3 リン酸質肥料・ケイ酸質肥料

土作りには、「ようりん」や「ケイカル」等の施用も有効です。

※稲わら・籾がらの焼却は絶対にやめましょう。

化学合成農薬・化学肥料を  
**3割以上減らします!**

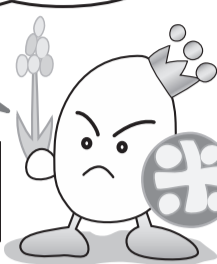
■南魚沼地域H23年度栽培基準

| 化学合成農薬使用回数(成分回数) | 化学肥料使用量(窒素成分kg/10a) |
|------------------|---------------------|
| 慣行栽培基準           | 19                  |
| 3割減栽培基準          | 13以下                |
| 慣行栽培基準           | 7.0                 |
| 3割減栽培基準          | 4.9以下               |

- ◆コシヒカリBLを使ってもち病の防除を減らします。
- ◆温湯消毒や微生物を活用して化学合成農薬を減らします。
- ◆病害虫の発生状況により最低限の防除を行います。
- ◆除草剤の使用は最低限にとどめます。
- ◆有機質入り肥料を使用します。

~これらの技術等を活用して3割以上の減化学合成農薬・減化学肥料栽培を目指しましょう~

慣行栽培  
基準より



目標品質

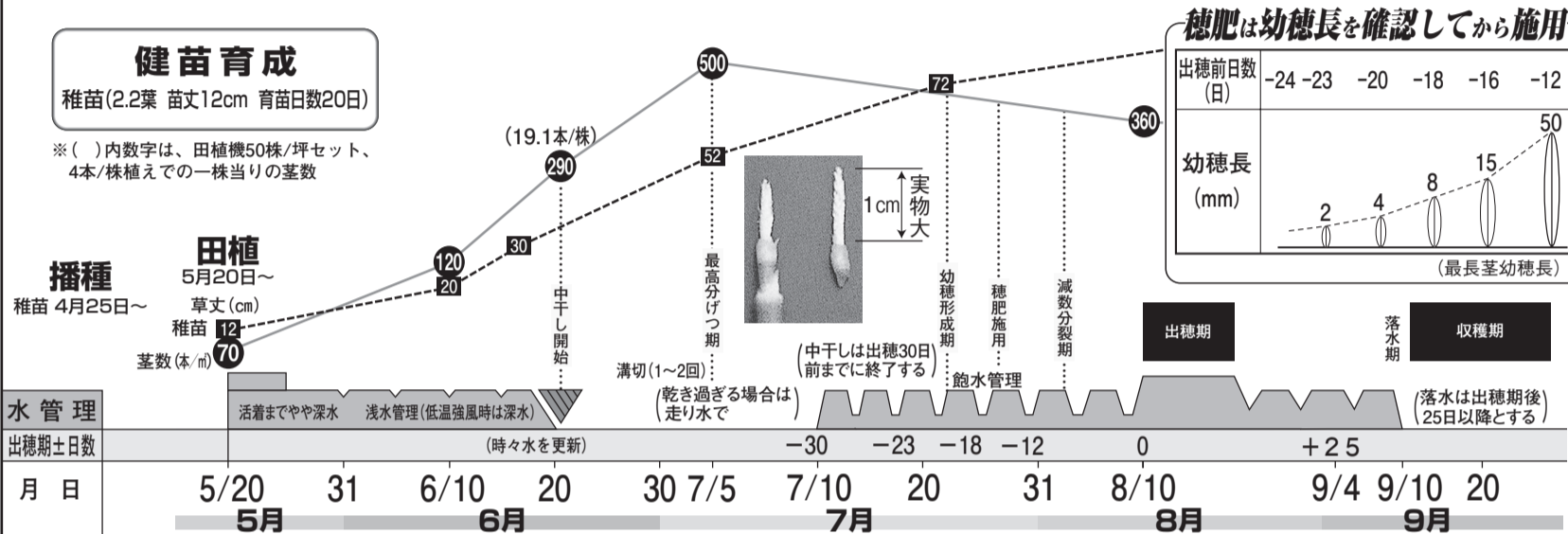
| 整粒歩合  | 一等級比率 | 玄米タンパク質含有率     |
|-------|-------|----------------|
| 85%以上 | 95%以上 | 6.0%(水分15.0%時) |

- 1) 稲わらの秋すき込みと土づくり資材の施用
- 2) 適期播種、適期田植えによる適期出穂
- 3) 基肥・穂肥の適正施用による理想的な生育量の確保
- 4) 適期中干しで根の健全化と生育調節で倒伏防止
- 5) 農道、畦畔の草刈り徹底による斑点米の発生防止
- 6) 出穂から25日間は、たっぷり灌水する
- 7) 適期収穫の徹底(積算気温めやす950~1000℃)
- 8) 適切な乾燥調製(ふるい目1.85以上の使用を推奨)

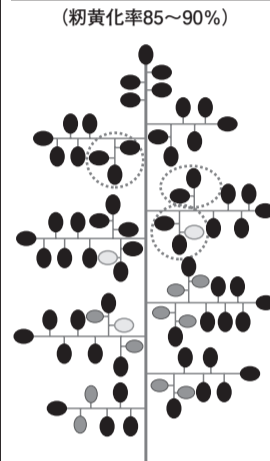
目標収量および収量構成要素

| 収量      | 穂数     | 総粒数       | 登熟歩合 | 千粒重   |
|---------|--------|-----------|------|-------|
| 510/10a | 360本/㎡ | 26,000粒/㎡ | 90%  | 22.0g |

生育指標



刈り取り適期



施肥体系例

**基肥**: コシヒカリBL基肥窒素成分量(古田2.5~3.0kg・開田3.0~4.0kg)

| 基肥肥料名               | 成分量(%)               | 基準施用量 | 1袋(20kg)当り化成窒素量 |
|---------------------|----------------------|-------|-----------------|
| 有機30魚沼ロマン500号       | N 15.0, P 10.4, K 10 | 20~30 | 2.08            |
| 3割減 有機30魚沼ロマン側条専用粒状 | N 12.0, P 8.3, K 15  | 30~40 | 1.66            |
| 有機30魚沼ロマンペーストs043   | N 10.0, P 7.0, K 4   | 30~40 | 2.80            |
| 5割減 魚沼ロマン有機専用       | N 10.0, P 5.0, K 14  | 30~40 | 1.00            |

**追肥**: 出穂30~40日前

- 魚沼ロマングルメエース
- けい酸加里プレミア 20~40kg/10a

**穂肥**: 後期栄養の確保

| 穂肥肥料名             | 成分量(%)              | 基準施用量 | 1袋(20kg)当り化成窒素量 |
|-------------------|---------------------|-------|-----------------|
| 3割減 有機30魚沼ロマン穂肥専用 | N 12.0, P 8.1, K 4  | 15~25 | 1.64            |
| 5割減 魚沼ロマン有機穂肥     | N 10.0, P 6.0, K 12 | 20~30 | 1.20            |

**土づくり**: 地力の維持確保

- 魚沼ロマンアイアンスター 60kg/10a
- 牛ふん堆肥 1~2t/10a
- 豚ふん堆肥 0.5~1t/10a

**化成窒素の計算方法**

肥料の現物量に化成窒素の含有成分をかける。  
肥料名: 有機30魚沼ロマン側条専用粒状

30kg(10a当り)散布した場合の窒素成分の計算  
全体窒素量 30kg×12%=3.6kg  
内訳: 化成窒素 30kg×8.3%=2.49kg  
有機窒素 30kg×3.7%=1.11kg  
計算式: 使用量×化成窒素=化成窒素量  
30kg×0.083=2.49kg

図中の点線内(上位3~4本目の1次枝梗)に着生する2次枝梗(穂)が黄化した時が刈り取り適期

注: 黄化の診断は1次枝梗が9本程度の平均的な穂について行います。調査本数は10穂程度必要です。  
8本以上が該当すれば刈り取り適期

防除薬剤と除草剤の使用は各農薬の化学合成農薬成分数を合計した数で13回以下の成分回数となるように使用してください。

● 農薬名の後ろの( )内数字は化学合成農薬成分数です。 ● 農薬は、一例を示したものです。これ以外の農薬、剤型も使用できます。

**病害虫防除例**

初期害虫+いもち病(育苗箱施用)

- Dr.オリゼプリンス 粒剤G (2)
- Dr.オリゼフェルテラ 粒剤 (2)

※育苗箱施用による葉いもち1回防除を必ず実施する。

草刈り(6月上旬) → 草刈り(6月下旬) → 一斉草刈り(7月中下旬)

斑点米カメムシ類(穂揃い期 1回散布)

- スタークル (粒剤・液剤・粉剤) (1)
- キラップ (粉剤) (1)

化学合成農薬成分回数13回以下で!

化学合成農薬成分回数とは、使用した農薬に含まれる成分数の合計です。

〈例: 化学合成農薬成分回数 13〉

| 農薬名           | 化学合成農薬成分数 | 備考          |
|---------------|-----------|-------------|
| テクリードCフロアブル   | 1         |             |
| タチガレエース粉剤     | 2         |             |
| ダコニール粉剤       | 1         |             |
| カスミン粒剤        | 0         |             |
| Dr.オリゼプリンス粒剤G | 2         |             |
| 草苗フロアブル       | 2         |             |
| トップガン剤        | 4         |             |
| スタークル粉剤       | 1         |             |
| 合計            | 13        | (化学合成農薬成分数) |

**除草体系例**

| 田植え日 | 一発除草の場合   | 代かきから田植えまでの時期が1週間以上ある場合   | クログワイ・オモダカの発生が多い場合  | 表層は離・藻類の発生が多い場合  |
|------|---|---|---|--|
|      | ヤイバ1キロ粒剤(2成分)<br>(移植時・移植直後~ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで)<br>トップガンLフロアブル(4成分)<br>(移植時・移植直後~ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで)<br>イノーバDXアップ1キロ粒剤(4成分)<br>(移植時・移植直後~ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで) | ユニハーフフロアブル(2成分)<br>(植代後~移植7日前まで)<br>草苗フロアブル(2成分)<br>(植代後~移植7日前まで) | 草苗フロアブル(2成分)<br>(移植時・移植直後~ノビエ1葉期 但し、移植後30日まで) → パンチャー1キロ粒剤(3成分)<br>(移植後5日~ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで)<br>マサカリジャンボ(3成分)<br>(移植後5日~ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで) → ハイカット1キロ粒剤(4成分)<br>(移植後15日~ノビエ3.5葉期 但し、収穫60日前まで) | 草苗フロアブル(2成分)<br>(植代後~移植7日前まで) → シリウスターボ1キロ粒剤(4成分)<br>(移植後5日~ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで)<br>シリウスターボ1キロ粒剤(4成分)<br>(移植後5日~ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで) |

**水田除草剤の使用は**

1. 一発除草剤の使用を基本とする。
2. 初期剤の移植前処理は7日前までとする(厳守)。
3. 処理後7日間は止水とし、かけ流しはしない(厳守)。
4. 処理後4~5日間は湛水状態を保つ(厳守)。

※防除薬剤と除草剤の使用は各農薬の成分数を合計した数で13回以下の成分回数となるように使用してください。

**異常高温に負けない高品質米づくり対策**

- ☆ 深耕~最低15cm耕うん
- ☆ 健苗育成で初期生育促進
- ☆ 水田地力に対応した基肥設計
- 過剰生育が防止され、穂肥が確実に施用できる施用設計を行う
- ☆ 早めできっちり溝切り・中干し
- 移植後30日頃から溝切り・中干しを行う
- 出穂30日前までに終了する
- ☆ 生育に応じた穂肥
- 1回目は慎重に、2回目は確実に、葉色や気象などの状況から出穂前に3回目も検討する
- ☆ 後期栄養を支える土づくりと水管理の徹底

\*農薬名は平成23年4月現在の登録農薬を記載した。農薬を使用する時は容器・袋の表示を確認し、農薬使用基準を遵守する。 ~生産履歴・農業規範は確実に記入しましょう。魚沼米憲章チェックシートも忘れずに!~

## 「最高の食味と品質を兼ね備えた米づくり」の栽培ごよみ